

小田原

広

報

まちづくり情報誌

2001 8 月号
8/1

平成13年8月1日発行
No.800



特集 酒匂川 物語

先人の足跡を辿りつつ、
私たちが
未来に向けて紡ぎだす
酒匂川の物語



特別寄稿

酒匂川

元気な川で、
楽しく遊ぶ

フィッシングライター・プロフィッシャーマン

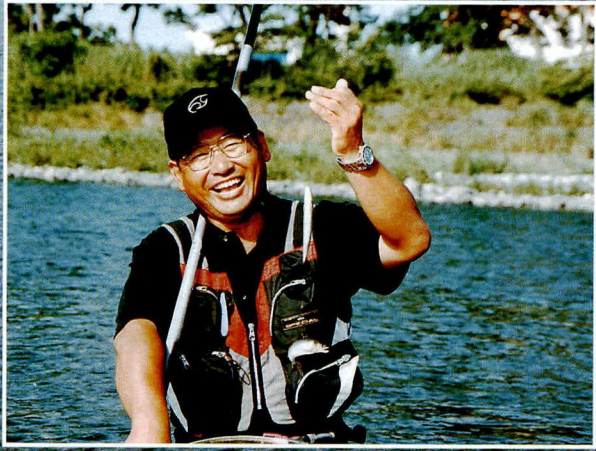
村越 正海



夏になると、酒匂川へアユの友釣りに出かけるのが楽しみである。

アユという魚はナワバリを持つ習性があった。たつぷり苔の付いた石をエサ場として占有しようとするのである。そのナワバリに侵入者のごとくオトリアユを送り込むと、怒ったアユが猛然と襲いかかってくる。

喧嘩っ早い習性を利用して、オトリアユにぶら下げたイカリバリで引っ掛けてやろうというのが友釣りの仕組みなのだ。



むらこし せいはい
小田原市在住。フイツンシタライター兼プロフイツチャーマン。単行本はじめその釣り、ゲーム「爆釣日本列島2」の著作・監修をはじめ、テレビ「THE FISHING」(テレビ東京系)などにも出演。世界中の魚と格闘しながら、釣りに関するものの企画・編集・監修と、活躍は多岐にわたる。

川底に無造作に転がっている幾多の石をじっくり観察してみるがよい。一見同じように見える石も、白っぽい石、赤っぽい石、茶色、緑色、テカテカ光る黒といった具合に、多種多様であることがよく分かる。

さらに注意深く見てみると、石に付いた苔に、剥ぎ取ったような痕跡がいく筋も残っている。それが、アユが苔を食んだ跡である。

釣りを通して川とかかわっていると、川から、実に多くのことを教えられる。広葉樹が川に豊かな栄養を与えてくれること。健康な川を維持するには健康な周辺環境が必要であること。健康な川があればこそ、魚が元気に育つこと、など。



魚釣りという遊びはまるで、川の健康診断のようでもあるのだ。

酒匂川はどうか。丹沢湖の上流、世附川、中川川、玄倉川ではヤマメが釣れる。下流の河内川、そして酒匂川本流ではアユが釣れる。中下流域ではアユのほかに、ハヤ、ヤマベ、コイ、フナ、ヘラブナ、ウナギなどが釣れる。

そう、水量こそ少なくなってしまうものの、酒匂川は元気なのだ。

郷里の川、水清き酒匂川で、いつまでも釣り続けたいものである。



「河川は地球上の水環境のかなめであり、私たちに大きな恵みをもたらしました。」

この河川の恵みによってはぐくまれた文明が、各地に伝播・融合し、現在の豊かな生活の礎となっています。」

これは昨年11月に行われた、酒匂川水系保全協議会によるサミット宣言の冒頭部分です。

酒匂川は、私たちにとってどのような存在なのでしょう。将来どのようにかわかっていけばよいのでしょうか。

まずは、サミット宣言のときに基調講演を行った宮村さんと会長の小澤市長の話から、酒匂川の持つ潜在能力と、将来に向けての可能性について探っていきましょう。

市長対談

母なる川を 未来へ



なぜ、いま酒匂川なのか

市長 昨年のサミット宣言のとき、先生の講演を拝聴いたしました。そのとき、東京にお住まいの先生が、なぜこれほどまでに酒匂川に詳しいのか、と驚きました。

宮村 私は川の専門家ですから当然でしょう。でもそれだけではありません。酒匂川がただ者ではないから魅力を感じたのです。流域の市町村が一体となったものごとを考えられる川は、神奈川県ではほかにありません。また酒匂川は、

いつの時代までさかのぼっていいのかわからないほど、古くから文化をはぐくんできた歴史のある川です。県内で唯一の城下町があるのも、酒匂川のあるこの地。言わば、酒匂川は神奈川のリーダーのような川なのです。

市長 確かに酒匂川流域は、古く

から関東の中心地でした。考えてみれば、この地域は酒匂川を軸として、太くつながっていたのですね。ですから、地方の時代に突入した今こそ、「酒匂川を軸としたまちづくり」という考え方をしなければなりません。今年、私たち酒匂川水系保全協議会は、「日本水大賞」奨励賞をいただきました。でもこれで満足はしてられません。酒匂川には無限の可能性があるので、と気がきました。

宮村 小田原には、酒匂川と早川という二つの大きな川があります。この二つの川は低水流量が全国でもトップクラスです。つまり雨が降らなくても困らないということ。しかも水の質もとてもよい。これは誇れることです。全国でもおそらくこの小田原は特別でしょう。本当に恵まれた環境です。



酒匂川と私たち

市長 私は子どものころ、よく酒匂川で泳ぎました。父はアユ釣りがとても好きで、毛バリなどの道具がまるで寶石箱のように思えました。その影響か私も釣りが好きで、よく川に行つたものです。今でこそなかなか釣りをする機会もありませんが、小田原に生まれ、恵まれた環境に暮らしていることを実感したひとときでした。

宮村 うらやましい限りです。しかし一方で、酒匂川は名うての暴れ川という面も持っています。過去にもたびたび氾濫し、自然の厳しさを覚えてきました。川との共生は、水害との戦いの歴史でもあります。そこでものを言うのが経験です。

市長 小田原の偉人、二宮尊徳先生も、酒匂川の土手に松を植え、まちを氾濫から幾度となく救ってくれました。自然



というものは、守ることと手を入れることのバランスが大事、ということですね。私たちも、もう少し酒匂川について勉強をする必要がありそうですね。

流域のまちづくり、その可能性

市長 酒匂川を取り巻く環境として、県を中心に進めていただいている酒匂連携軸総合整備構想というものがあります。東海道を中心とした南側の生活圏と、東名高速や国道246号など県央を横断す

る北側の生活圏を結び、酒匂川を中心とした広域的な拠点性を高めていくというものです。また、源流部の静岡県の市町まで含めた流域4市6町で、自治体・企業が一体となった酒匂川水系保全協議会を組織し、協力しあつて保全に努めています。私は、これから酒匂川を中心とするまちづくりを進めたいと考えており、例えば「酒匂川物語協議会」みたいなものが作れば、などと夢を描いています。

宮村 それは素晴らしい。川は地域のヒーローです。こういう時代

だからこそ、広い視野でしかけを行うことが求められているのです。「酒匂川物語」という名前も夢を感じさせますね。

市長 小田原市では、市の鳥をコアシサシに、そして市の魚をアジとメダカに決定しました。絶滅危惧種の小田原メダカは、市民の皆さんがお父さん・お母さんとなつて守ってくださいっています。コアシサシについても、ボランティアの方の音頭によつて、安心して子育てをしやすい環境が維持されています。また、自治会の皆さんを中心とした、「クリーンさかわ」という一大清掃事業も毎年行っています。これを始めてから、川が本当にきれいになりました。皆さんがこれだけまよとまってこられたのも、酒匂川のおかげだと思っています。小田原市民は、本当に酒匂川が好きなのです。

宮村 文明というものは、川を中心にはぐくまれていくものです。酒匂川があつて小田原が発展し、周辺のまちも発展していく。新興地というものは、いつもそのように広がっていくのです。そういう意味で、小田原は神奈川のリーダーとして、大切な役目を担っています。ぜひ、酒匂川を中心とした次世代に誇れるまちづくりを行ってください。

市長 母なる酒匂川の一員として、上下流一体となつて可能性を探っていきたいと思ひます。そのために、ぜひ先生の知恵とエネルギーを貸していただきたいと思ひます。今日はどうもありがとうございました。



宮村 忠さん

関東学院大学工学部教授。「水害一治水と水防の知恵一」、「四季隅田川」など、川にまつわる著書多数。川のエキスパートとして多方面で活躍中。市内荻窪にある「めだかの学校」建設時の事前調査など、小田原の水環境にも一役買ってください。



小澤 良明小田原市長

酒匂川・時の流れ



悠久の時のかなたから、たゆまず流れ続けてきた酒匂川。そこでは、たくさんの生命とさまざまな文化がはぐくまれてきました。母なる酒匂川の軌跡を、年表でたどってみましょう。

縄文時代

現在の関本（南足柄市）付近までが海だった時代、すでに酒匂川は存在し、相模湾は学術的に「酒匂湾」と呼ばれている。

弥生時代

酒匂川流域に中里遺跡の集落が栄える。

1180（治受4年）

吾妻鏡・源平盛衰記に酒匂川（丸子川）として文献に初出

1277（建治3年）

「十六夜日記」の作者阿仏尼、京都から箱根を越えて酒匂川を渡り、酒匂に泊まったのち鎌倉へ赴く

1603（慶長8年）

左岸の用水路として、酒匂堰が完成する（新編相模国風土記稿による）

1609（慶長14年）

大口堤が完成し、酒匂川の乱流が整理される

1645（正保2年）

小田原城主・稲葉正則が將軍に焼アユを献上（「稲葉日記」による）

1669（寛文9年）

酒匂川の川越賃金が定められる

1674（延宝2年）

酒匂川に徒渉制（徒歩）がしかれ、渡し船が禁止となる

1707（宝永4年）

富士山爆発による大量の火山灰により、酒匂川治水のかなめの大口堤が決壊し、大被害となる

1708（宝永5年）

富士山火山灰により、酒匂川で大洪水

1726（享保11年）

大岡越前守の命により、田中丘隅が文命堤を完成させる

1736（元文1年）

酒匂川の引船について、幕府が許可する

1739（元文4年）

幕府から命を受けた須藤平蔵が、吉田島の酒匂川河川敷あたりで一文銭を鑄造。銭土手と呼ばれる

寛政年間

二宮金次郎、酒匂川土手に200本の松を植えたと伝えられる（現在の坂口堤の松並木）

天保・嘉永

安藤（歌川）広重、東海道の浮世絵を描く

1822（明治15年）

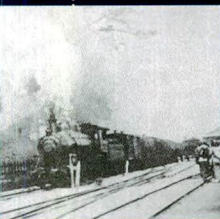
酒匂橋（木橋）が完成する

1889（明治22年）

東海道線（現・御殿場線）が酒匂川・鮎沢川に沿って開通

1905（明治38年）

美人東海道（岩崎宗純蔵）





写真：渋沢義一



- 1923(大正11年) 関東大震災により、酒匂川鉄橋の橋台倒れる
- 1932(昭和7年) 足柄平野に初の化学工業会社が進出する
- 1936(昭和11年) 小田原水道が給水を開始
- 1938(昭和13年) 連日の豪雨により大洪水が起り、吉田島堤が決壊する
- 1940(昭和15年) 足柄村・山王原網一色などが合併し、小田原市が誕生する
- 1941(昭和16年) 印刷局の中で最も敷地面積の広い内閣印刷局酒匂工場(現在の財務省印刷局小田原工場)が、酒匂川沿いに完成する
- 1960(昭和35年) 酒匂川水系保全協議会が設立する
- 1965(昭和40年) 酒匂川が二級河川に指定
- 1966(昭和41年) 右岸に西部処理区が完成し、小田原市下水道処理が始まる
- 1971(昭和46年) 右岸農業用水の取水口として、栢山頭首工が完成する
- 1972(昭和47年) 集中豪雨により酒匂橋が一部倒壊する
- 1973(昭和48年) 酒匂川の最終的集水地点である小田原市飯泉に、取水堰が完成する
- 1978(昭和53年) 山北町に三保ダムが完成する
- 1990(平成2年) 第1回小田原酒匂川花火大会が開催される
- 1991(平成3年) 市民による酒匂川「斉清掃」「クリーンさかわ」始まる
- 1995(平成7年) コアジサンを市の鳥に制定
- 1994(平成8年) 小田原市総合文化体育館小田原アリーナが酒匂川沿いにオープンする
- 1998(平成10年) 第53回国民体育大会が開催される(カヌー・ソフトボールなど)
- 2000(平成12年) 酒匂川水系保全協議会が「酒匂川・鮎沢川水系サミット宣言」をする
- 2001(平成13年) メダカ・アジを市の魚に制定する

山北町で行われたカヌー競技



写真：足柄消防組合東消防署

鳥の目から

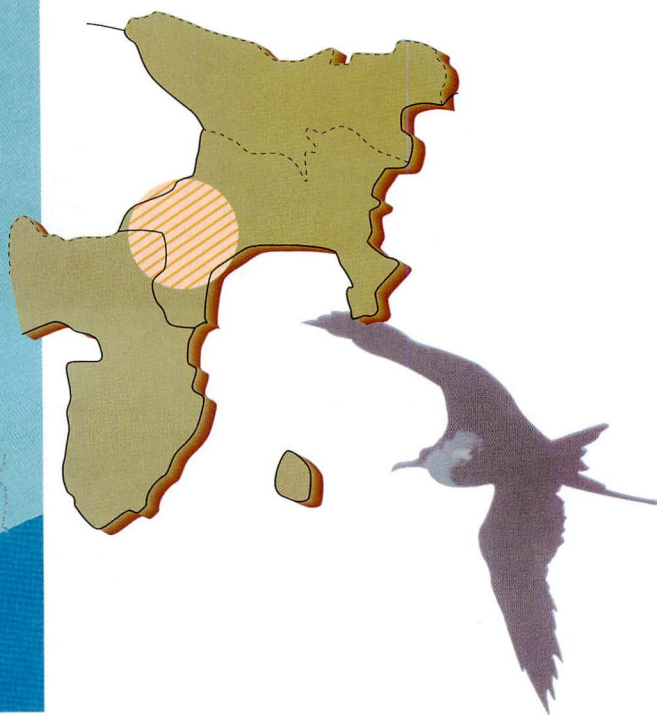
爽快！空の旅。

緑豊かな足柄平野、背後にそびえる丹沢・箱根山嶺、富士山嶺を源流にその中心を悠々と流れる酒匂川。鳥たちの目には、酒匂川はどのように映っているのでしょうか。雲を切って、大空を自由に飛んで、酒匂川を見下ろしてみまじよう。

写真：生命の星・地球博物館



資料：生命の星・地球博物館



ここは酒匂川の源流の一つとされる、富士山麓のわき水。木々に囲まれた源流部を前に「ここに住んで私で3代目ですが、関東大震災でもこの水は濁らなかつたと父から聞いているよ。岩の層の間からわいているからかな。水がきれいだね、この水でいれたお茶もおいしいよ。水温も一年中11度で安定していて、冬になれば外氣の方が冷たいから、もやが出て幻想的だよ」と勝又さん。この水が小田原まで行くのかと感慨深そうでした。



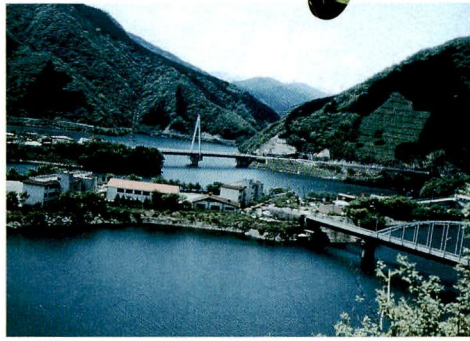
酒匂川の源流部を見守る
勝又松治さん(御殿場市 75歳 農業)



①源流部の一つ(鮎沢川上流)



②**箒杉(国指定天然記念物)**(中川川)
名称の由来は、その樹形からとも宝木沢という地名からとも言われています。樹齢約2,000年(推定)、高さ45m、周囲12mの大木。



③**丹沢湖(玄倉川・中川川など)**
河内川に設けられたロックフィル式(土質遮水壁型)の三保ダムにより生まれた人造湖。



④**洒水の滝(全国名水百選・かながわの景勝50選・県指定史跡名勝)**
鎌倉時代に文覚上人が百日の荒行をしたとき、不動明王を安置したと伝わる滝不動尊もあります。



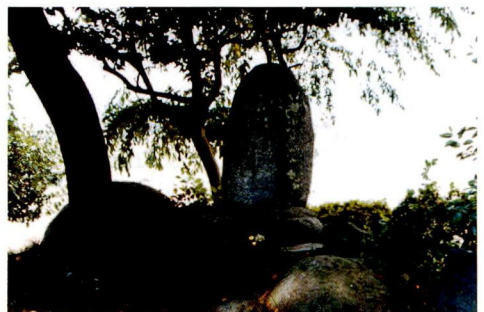
⑦**文命堤・福沢神社**
宝永4年の富士山噴火が原因で川が氾濫し、足柄平野が荒地と化してしまいました。そこで、小田原藩主大久保氏は自力復興が不可能なため、この領地を幕府に返還しました。幕府は当時、南町奉行の大岡越前守に酒匂川を復興するように命じます。越前守はこの大任を果たすため川崎宿の名主田中丘隅に頼み、享保11年に堤は完成しました。
文命堤の名の由来は、昔、洪水に悩まされた中国の禹という国の王が一生をかけて黄河の堤防を築いた功績をたたえられて「文命」という称号をもらったという伝説から、丘隅は「文命堤」と名付けられました。横に建つ福沢神社は、堤防の守り神です。

⑤**山北駅(酒匂川上流)**
鉄道唱歌の一節「いではくぐるトンネルの、前後は山北小山駅、今も忘れぬ鉄橋の下ゆく水のおもしろさ」や、北原白秋の歌にも「鮎鮎」とともに「山北」は出てきます。
(16ページ参照)



⑧**開成水辺スポーツ公園**
パークゴルフ場、野球場、サッカー場などがあるスポーツ公園。パークゴルフが老若男女に大人気。
☎83-1331

⑥**矢倉沢関所跡(狩川・内川)**
江戸時代に東海道の表関所として完備された箱根の裏関所として設けられました。近くに矢倉沢裏関所跡も残っています。

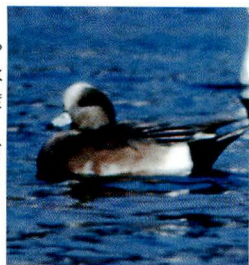


⑨**三角土手の水神**
酒匂川と川音川の合流地点の堤防は「三角土手」と呼ばれています。
松田山からの眺め。



アメリカヒドリ

アリューシャン列島や北米から、冬場にも水草が豊富なところに渡ってきます。飯泉取水堰でヒドリガモ群中に姿を見ることができます。



ミサゴ

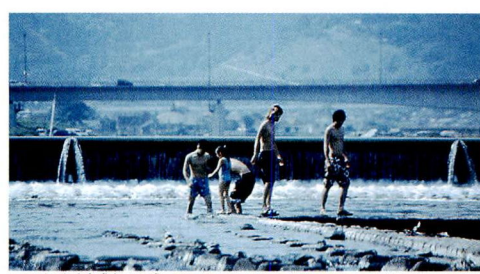
一年中飯泉取水堰周辺で見ることができます。単独の場合がほとんどで、水面上空をよくパトロールしていて、大型の魚を取ります。



13 酒匂川青少年サイクリングコース
(小田原市～開成町～南足柄市)



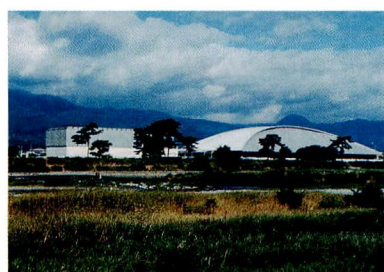
12 尊徳記念館・生家
二宮尊徳(金次郎)の生家。その偉大な業績は隣にある記念館で学ぶことができます。



10 栢山頭首工(取水施設)
頭首工の完成により酒匂川の水が農業者をはじめとする地域住民の生活を潤すこととなりました。



15 飯泉取水堰
酒匂川の水は小田原市内だけでなく、ここから横浜市や川崎市にも送られています。



14 小田原アリーナ
小田原市の総合文化体育館。特徴的な外観は小田原のランドマークです。



11 松並木
二宮尊徳が、酒匂川の氾濫を防ぐために植えたと伝えられています。松が今でも勇壮な景観を見せています。

飯泉取水堰付近で
見られる鳥たち

コアジサシ

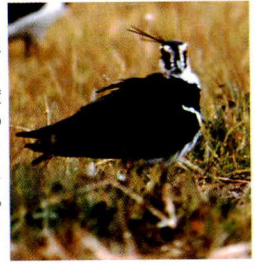
小田原市の鳥。オーストラリアからの渡り鳥。飯泉取水堰付近から報徳橋のあたりに営巣します。



撮影すべて：室伏友三

タゲリ

栢山から飯泉橋の周辺に、秋から冬にかけて、中国などの大陸から渡ってきます。田んぼの土をけっ飛ばして虫をついばむことから、この名前で呼ばれます。飛来する数は年により増減があります。



カンムリカツ

カツブリで最大、飯泉取水堰周辺で何羽かかけることもあります。カムチャツカ、ア、青森県などから、月下旬ころから来し、翌3月ころまで、時には、夏も観察できます。



鳥類を見守る人

室伏友三さん

(湯河原中学校教諭、
財団法人鳥類保護連盟神奈川県支部長)

「県内でも酒匂川ほどのところはありませんよ。日本には約630種の鳥類が生息したり渡って来たりしますが、そのうち300種が酒匂川にかかわっているのです。ただ残念なことに、数が減っている鳥もいます。原因はいくつかあると思われるのですが、その一つは、ルールを守らない人間がいるということです」と室伏さん。「川辺でパーベキューをしたあとの食べ物の残りや、遊んだあとのごみを放置したまま帰る人もいます。生ごみを放置すると水は汚れ、野良猫などがやってきます。すると鳥の卵やヒナも見つけられて食べられてしまうんです。水辺を控えた場所はずべての動物のエネルギー充足と休息の場。大切にしてほしいです」と熱く語ってくれました。



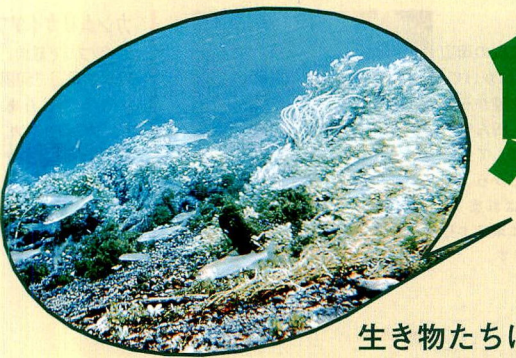
16 飯泉取水堰付近(コアジサシの郷)
このあたりは、多くの水鳥のいこいと安らぎの場所です。



17 酒匂川左岸サイクリング場



18 渡し場跡地碑
安藤(歌川)広重の浮世絵にもある酒匂川の渡し。今は横にある句橋で、簡単に川を渡ることができます。



魚の目から われら 酒匂川住民！



生き物たちにとって酒匂川はどのようなすみかなんでしょう。
酒匂川の魚たちは、何をみているのでしょうか。
魚の目に映る、酒匂川に息づく生き物を紹介します。



シマドジョウ さらさらした砂地がお気に入り。



メダカ ご存じ「市の魚」。今では全国的にも珍しく、「絶滅危惧種」に指定されています。

ナマズ 子どものころにはヒゲが6本。成長するとヒゲが4本になります。

魚たちの 最後のとりで

淡水魚は関東と関西で見られる種類がちがいます。また関東は、魚の種類が少ないのですが、特に酒匂川には限られた魚しかいません。

酒匂川は水がきれいで、水量も豊富なのですが、勾配がきつく、急流であることや、周辺の田んぼ地帯に池やたまりがないといった河川状態が、魚の種類を限られたものにしていていると思います。

しかし、メダカやナマズ、シマドジョウなどといった、県内では数少なくなつてしまつた貴重な魚が息づいていることも見逃せません。魚たちにとって、酒匂川は最後のとりでといったところでしょうか。

でも、酒匂川が、魚たちにとって最高の状態であるわけではありません。一度いなくなつてしまつた川では、淡水魚が自然に復活することができないのです。この貴重な魚たちを、いつまで酒匂川で見ることができるようを守りたいものです。



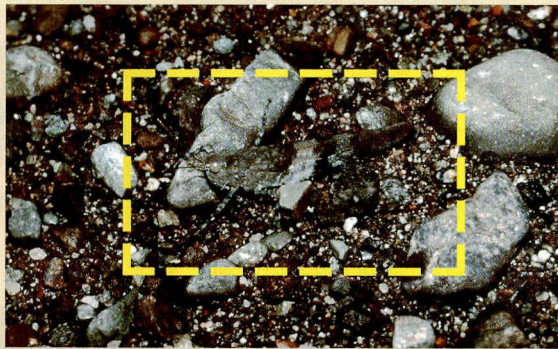
瀬能 宏さん
(県立生命の星・地球博物館学芸員)

すべて写真提供：生命の星・地球博物館
撮影：瀬能宏





ミヤマシジミ
県内での最後の生息地酒匂川でも姿を消してしまいました。



カワラバッタ 県内では酒匂川でしか見られなくなりました。

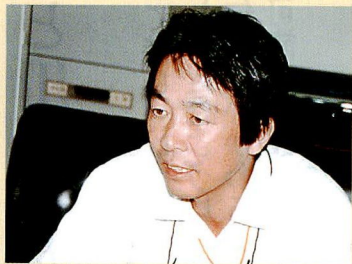
人に良い川は、虫にとってはつらい川

酒匂川の水はとてもきれいです。しかし、酒匂川も全国的な例にもれず、堤防や護岸の整備が進み、虫たちにとっては、住みやすい川であるとは言えません。

昔の川は、季節や雨量によって流れを変えてきました。その自然が生んだ蛇行によって、川にたまりができ、土砂が運ばれ草地ができました。虫たちは、そこで生まれ、育ってきたのです。

しかし今は、どの川でも人の生活にやさしくとのことから、いつでも流れが一定となり、同じ軌道を描いています。その結果、河原は安定し、変化の乏しい環境となりました。せめて、堤防の間隔を広くとり、この中で川が蛇行できれば、酒匂川でも多くの虫たちが生きのびたのではないのでしょうか。

かろうじて、県内では酒匂川で見られない虫もいます。その虫たちを見るたびに、私たち人間へのメッセージが聞こえてくるのは私だけでしょうか。



高桑 正敏さん
(県立生命の星・地球博物館学芸員)

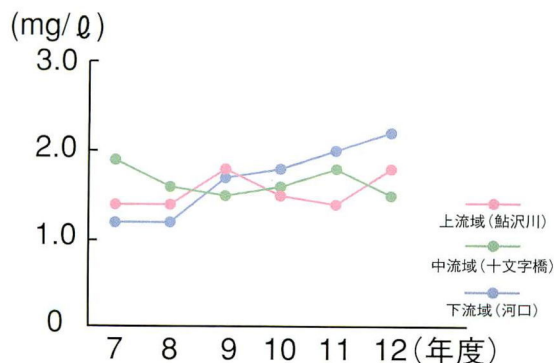
すべて写真提供：生命の星・地球博物館
撮影：高桑正敏

データに見る酒匂川 その1

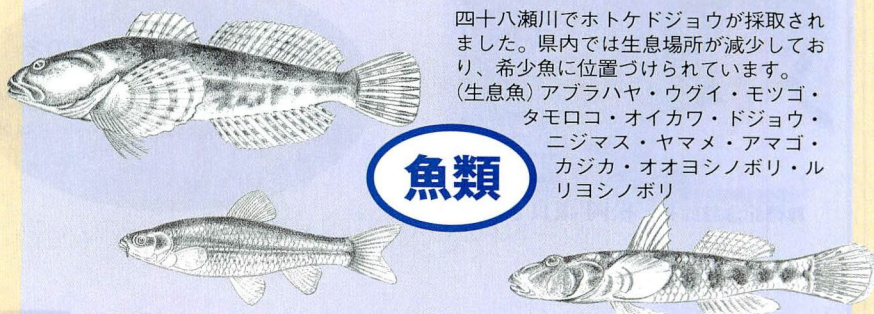
水質調査

(年4回実施・酒匂川水系保全協議会)
カドミウムなどの健康項目(有害物質)と河川の汚濁指標となる生物科学的酸素要求量(BOD)は環境基準を満たしています。

酒匂川本川におけるBODの経年変化(年平均値)

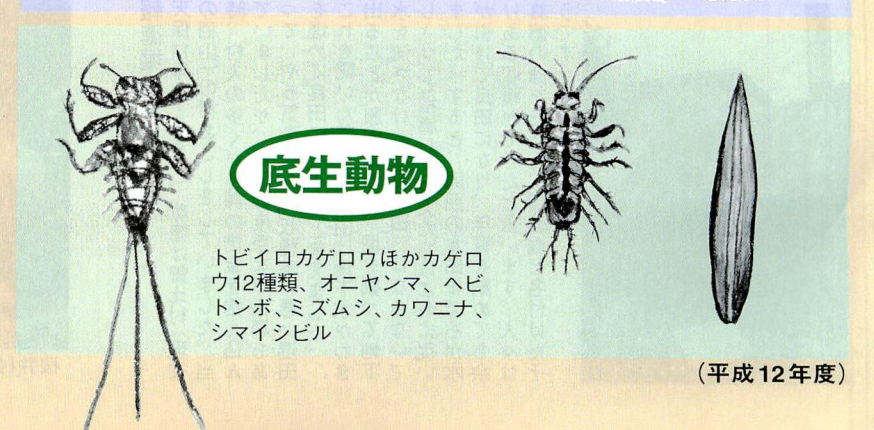


酒匂川・鮎沢川水系水生動物調査



四十八瀬川でホトケドジョウが採取されました。県内では生息場所が減少しており、希少魚に位置づけられています。
(生息魚) アブラハヤ・ウグイ・モツゴ・タモロコ・オイカワ・ドジョウ・ニジマス・ヤマメ・アマゴ・カジカ・オオヨシノボリ・ルリヨシノボリ

魚類



底生動物

トビイロカゲロウほかカゲロウ12種類、オニヤンマ、ヘビトンボ、ミズムシ、カワニナ、シマイシビル

(平成12年度)



●人の目から●

瞳に映る 酒匂川

人と川とのかかわりの中で



人は川と戦い、川で遊び、川で暮らしをたて、そして川を支えてきました。川が土地を豊かにしてきたように、人は川とかわりながら、地域を発展させてきました。酒匂川にかかわる人々の営みから、酒匂川のどんな姿が浮かび上がり、どんな可能性が見えてくるでしょう。

「小田原」は、暴れ川の異名を持つ酒匂川の氾濫原を開拓してつくったことから、「小さな水田の原」という地名が付けられたと言われています。酒匂川を巡る多くの人の努力と汗によって、今の私たちの生活があるのです。

土地勘があるというのか、未来が見えたというのか、現在でも感心するほどの確かな指導ぶりには驚きます。今の小田原があるのは、二宮先生のおかげじゃないですか」と、酒匂川にまつわる偉業を紹介してくれました。

堤防のクロマツ

二宮尊徳(金次郎) 翁はすごい!

「二宮先生は、酒匂川を愛し、そして理解し、地域のためにその自然を生かしました」と尊徳記念館館長の松岡謙良さんは、郷土の偉人をこうたたえました。



二宮尊徳

小田原のシンボルに

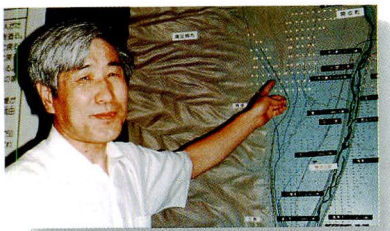
尊徳は、昔から暴れ川として氾濫を繰り返してきた酒匂川の堤防に、成長が早くて大きく根を張るクロマツを植えました。現存する松は2代目だろうと言われているのですが、碑の近くのものには木の周囲

が3mを越えています。

このクロマツは、市の木として小田原のシンボルになっています。

データに見る酒匂川 その2

クロマツ本数	
河口～報徳橋(7 km)	397本
報徳橋～大口橋(14.5km)	834本



尊徳記念館館長 松岡 謙良さん

尊徳の松並木の記念碑
酒匂川堤防の小さな公園に、尊徳(金次郎)が植えた松並木の記念碑があります。「先生若年ノ頃、松苗二百本ヲ植エラレシ所ト伝フル坂口堤ニシテ、推譲ノ徳」高キ先生ノ嫩芽(注2)ヲ見ルノ心地ス」

(注1) 推譲：二宮尊徳は、言い争うのは鳥獣の道、推し譲るのが人間だけにできる人道の生活である、と説いています。

(注2) 嫩芽：新芽



桜井村青年団栢山支部建立

報徳堀
天保11年(1840)、尊徳は曾比村(現在の栢山)の村おこしをしていました。当時、村人の多くが多額の借金を抱え込んでいましたが、尊徳の度重なる指導もあって、やる気を出し、「収穫率の悪い湿地を埋めて良田にしよう」と考えました。

これを聞いた尊徳は「湿地は地下水がわき出ることが原因だから、堀を掘って地下水を流さなければ良い田にはならないでしょう」と指導し、村人たちはこれに従いました。すると、周囲の水田までもが水が引けて良田になり、年貢を納めても余りある収穫ができたと言います。人々は尊徳の徳をたたえ、報徳堀と名付けたそうです。





前副組合長・東栢山
木村 四郎さん(72歳)



前組合長・曾比
鉦持 昭二さん(74歳)



組合長
片山 幸男さん(60歳)

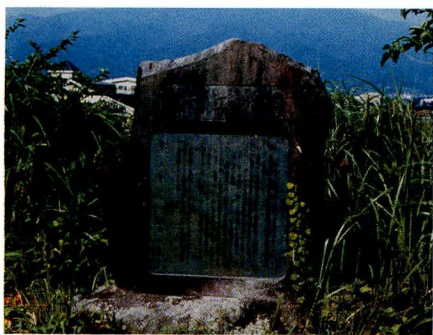
写真2枚 荒木良一郎



安戸堰堤



御殿場線六軒屋鉄橋



栢山頭首工の完成の碑

栢山頭首工

酒匂川が吹き込んだ農業の命

地域の農民は、酒匂川の洪水や濁水に悩まされ、農業用の水の確保に大変な苦勞をしてきました。昭和46年に地域の念願がかない、取水施設の栢山頭首工が完成したことにより、足柄平野が県内でも屈指の穀倉地帯として一層の脚光を浴びてきました。

酒匂川との戦い

「私たちの組合の歴史は、酒匂川の水防とかんがい用水対策との戦いでした。酒匂川は昔から暴れ川として、田畑や家畜、そして人間に害を及ぼしてきました。今、全国的にも『うまい』と評判の、良い米が取れるのも、先人たちの血のにじむような努力があつてのことなんです」と酒匂川水系農業用水組合長の片山さん。

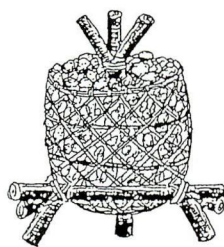
「私の若いころの酒匂川の暴れようはすごかった。川が大雨のたびに氾濫し、本流がうなりをあげて動きました。その度に、元の流れに戻す

ため、スコップとかごをかつぎ、命を張って玉石をかきだしました。戦後に酒匂川は二級河川となり、県の管理となりましたが、それ以前は各地域の責任において災害に立ち向かったのです。ブルドーザーがない時代、そりやもう、住民のがんばりようは大変なものでした。今考えれば、そうやって地域のきずなが育ったんですね」と前副組合長の木村さん。

「全国的にも、水害対策として堤防にだけ松が植わっているのは珍しいですよ。戦前は、洪水のときは、堤防の松を切り倒して三つ杵(注)を作りました」と前組合長の鉦持さん。

その後、農業関係者・農協をはじめ、河川漁業組合や沿岸土地改良区などの多くの方の努力や、国・県の強力なご尽力によって栢山頭首工は完成します。

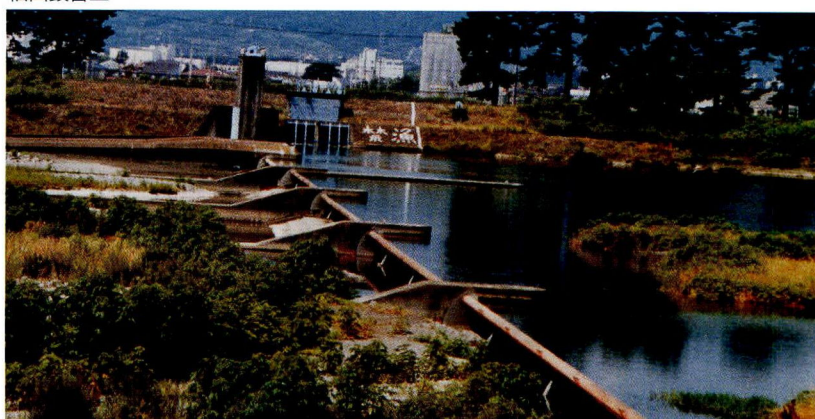
「頭首工の完成時には、この地域に大きな歓声がありました。今や酒匂川沿岸の大動脈として、きれいな酒匂川の水は、農業者をはじめ地域住民の生活用水としても役に立っています」と片山さんが結びました。



三つ杵

(注) 組み上げた杵の中に蛇かごを並べ、これに適当な玉石を詰めて、水勢の当たる、いわゆる「あて場」に備える工法。急流の酒匂川では、一番効果のある工法と言われていました。流れが変わるため、右岸と左岸では組み方が逆となります。

栢山頭首工



データに見る酒匂川 その3

栢山頭首工の概要

事業費 5億2,177万6千円(国65%・県35%)

工期 昭和43年度着工、昭和46年度完成

受益面積 294.9ヘクタール

幸せ贈って半世紀！

今年で酒匂川漁業協同組合も50年を迎えます。「酒匂川の釣り人が幸せな気持ちで帰路につけることが、私たちの使命だと思えます。清流の流れ、河原の風、野鳥のさえずり、絵はがきのように広がる景色とすべてが一級品です。あとは釣果ですよね」と笑う組合長の名坂さん。

「だから、多くの釣り人に楽しんでいただけるように、魚の放流か所を増やすなど工夫しています」と、名坂さんはもてなしの心で酒匂川を支えています。

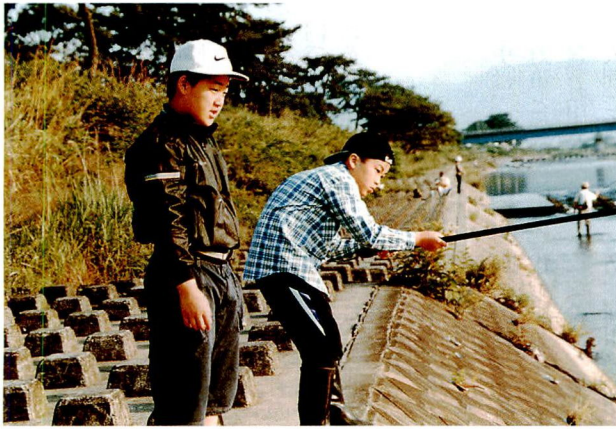
●酒匂川漁業協同組合

☎374277

酒匂川漁業協同組合長
名坂 四良さん



アユの放流



データに見る酒匂川 その4

平成13年度酒匂川への放流数(単位:尾)

アユ	1,600,000
ヤマメ	10,000
コイ	7,000
フナ	5,000
ウナギ	2,500
ニジマス	2,000
イワナ	2,000

幻の「あゆ寿司」を復活させる

「『あゆ寿司』の復活が夢でした」。内藤さんは、御殿場線が東海道本線だった時代に名物駅弁として名をはせた、幻の「あゆ寿司」の復活に情熱を傾けてきました。

「当時店で働

いていた方を講師に招いて、商工会の婦人部で作り方を直々に教わりました。アユの大きさによって、酢や塩の加減を微妙に変えるのに手がかかり

ます。素材にも十分こだわって、酒匂川でとれたアユと酒匂川の水で作ったお米しか使っていません。

予約での販売のみになりますが、復活した「あゆ寿司」は購入された方にも好評とのこと。

「『あゆ寿司』が、まちの特産品となり、地域の活性化に役立てばうれしいです」と、今にも泳ぎ出しそうな「あゆ寿司」を前に話してくれました。

山北町商工会副会長

内藤 和江さん



山北

早やも山北、

チラチラ、燈、

鮎は鮎鮎、

溪の月。

北原白秋

●山北町観光協会

☎752717

未来へ大きな財産を 引き継ぎたい

「川らしい川。これが酒匂川です。私も幼いころから、ここで遊んできました。四季を感じることができのりも大きな魅力です」と小田原土木事務所の柚木さん。

「川らしい川。これが酒匂川です。私も幼いころから、ここで遊んできました。四季を感じることができのりも大きな魅力です」と小田原土木事務所の柚木さん。

小田原土木事務所
河川砂防第一課 課長補佐
柚木由治郎さん



「酒匂川は私のふるさとです。今の仕事にやりがいを感じます。神奈川県は小田原市、そして沿川自治体の協力により、昭和62年3月に酒匂川河川環境管理の基本計画を策定し、自然にやさしい川づく

りを進めています。特に酒匂川らしさの演出が課題です。スポーツなどが楽しめる『利用ゾーン』、河原遊びなどに適している『水辺ゾーン』、野鳥観察などができる『自然ゾーン』を中心に、地域に愛される川としたいです。いつまでも酒匂川を大切にします」と熱く語ってくれました。

家族そろって 楽しんでいきます

酒匂川左岸サイクリング場

「風がすこく気持ちいい。ペダルをこぐとすずしくなるよ。二人乗り自転車も最高！」とれんげ幼稚園に通う香純ちゃん。

「香純が、お父さんと一生懸命練習して、初めて自転車に乗れたのが、ここのサイクリング場で」と由香さん。

「近所なので、よく来ますよ。酒匂川の眺めと、土手に咲く四季折々の花で休日はリフレッシュしています」と剛さん。

中島ファミリィ
(南鴨宮)



中島剛さん・由香さん・香純ちゃん(5歳)・力弥くん(2歳)

コラム 1

酒匂川の未来に期待！

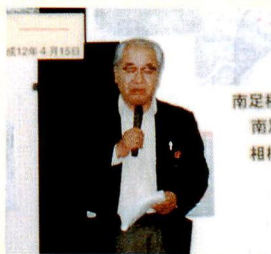
全国各地で小田原の情報や魅力を発信してくださっている「小田原評定衆」の皆さん。「酒匂川」の未来にエールを送ってくれました。

問市民交流課 ☎33-1706

●岩田 静夫さん

南足柄市在住、漁業情報サービスセンター勤務

相模湾の定置網に大被害を与える急潮予報研究などにかかわるとともに、市内漁業関係者から

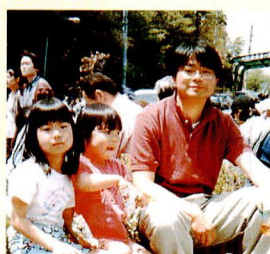


の相談にも気軽に対応する岩田さん。「新鮮でおいしくて安全な魚介類を提供できるのは、相模湾の環境が保全されているあかしです。湾の生態系に深くかかわっている酒匂川などを含めた総合的な自然環境の保護とその活用(沿岸域管理)で、全国の先導的な役割を果たして欲しいですね」と期待を寄せています。

●清水 直樹さん

群馬県在住、新聞社勤務

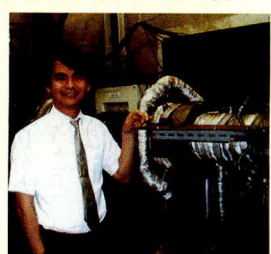
奥様が小田原出身で、小田原を訪れるたびに、新しい魅力を発見するという清水さん。「小田原には海もあれば山も川もあります。それぞれが人の心を和ませてくれる、やさしさを持っています。そして、十分に市民生活に溶け込み、活力の源になっているようですね。四季折々の表情も、またすばらしいです。酒匂川をはじめ、その貴重な財産の保全を第一に考えた施策に期待しています」と小田原に注目しています。



●飯田 訓正さん

横浜市在住、慶應義塾大学理工学部教授

「小田原とのご縁は、低公害車・電気自動車の導入の折に、お手伝いさせていただいたのが始まりです」という飯田さんは、近未来型エンジン開発などを通じて、エネルギー・環境・経済の三者のバランスのとれた社会づくりを指向しています。



「今後、地域の環境を地域の住民で守り育て、感謝する、そんなモデル都市として発展して欲しいです。美しい酒匂川をいつまでも守ってください」。

小田原の水道水は本当においしい。泥臭さも薬臭さもなく、夏でも井戸水のように冷たい。ほかの場所で生活してみると、そのありがたさが身にしみる。蛇口をひねればあたりまえのようにほとばしる水。この水はどこからどんなふうにしてやって来るのだろうか？



飯泉取水堰(いづみしゅいせき)
酒匂川河口から2.3km上流に設置された長さ342.5mの全面稼働堰。左岸の取水口から1日最大180万9千tの源水を取水し、ポンプで揚水して送水しています。

吉田幸次

●人の目から●

魚と野鳥の集う命の源

飯泉取水施設潜入レポート

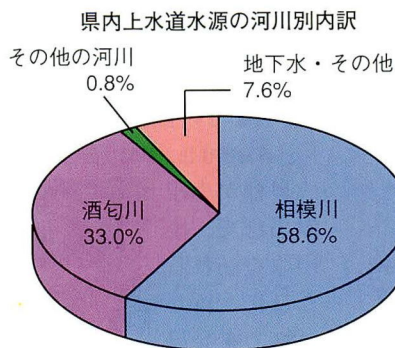
広報レポーター 中川則子さん(板橋)

酒匂川から水を取り入れているというこの施設は、これまで幾度となく素通りしている飯泉にあった。神奈川県内広域水道企業団の取水施設である。ここで取水された水の一部は小田原市の施設である高田浄水場へ送られ、市内で使用される水道水の約70%になる。あとは県下の各都市へも生活用水として供給されている。広大な酒匂川流域のほんの一つの堰にすぎないが、ここから毎日浄水場に送られている膨大な量の水(横浜スタジアムの広さで、高さ120m分は、どれだけの人命を守っているのか、その重責は計り知れない。施設は、地震・水害といった天災にも十分に耐えうる設備を持ち、文字通り24時間体制で職員が命の水の監視にあたっている。

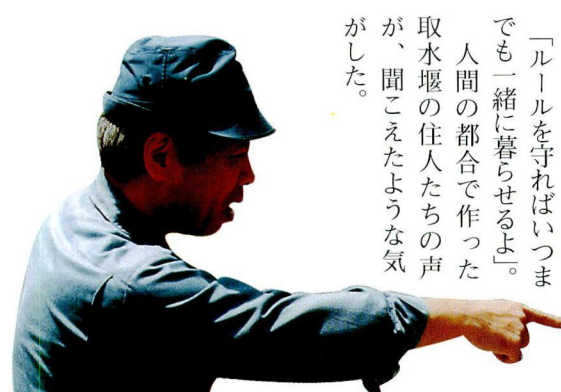
一番の心配事は、事故などによる油の流出だと言います。最新技術の導



中川則子さん



入もさることながら、上流の川や水路に異変がないかを常に確認する、水源監視モニターの方の協力が不可欠なものとなっている。そしてやはり河原のごみのポイ捨ては憂慮すべき問題であり、ここでのごみ処理は年間100tにもなるという。自らの命のもとをおびやかしているのもまた人間であるのだ。酒匂川を汚すことは、巡り巡って自分たちの水道水を濁らせるということ。私たちが肝に銘じなければならぬのである。



神奈川県内広域水道企業団
飯泉取水管理事務所 所長補佐 加藤史夫さん

地がよさそうだ。さわやかな風に吹かれ、取水堰からの眺めを楽しませていただくと、せきとめられた水辺には、のんびり泳ぐ巨大なコイ。中州にはたくさん草が生え、幾種類もの野鳥たちが住んでいる。新幹線の音などお構いなしのように、優雅にはばたいている。彼らの命の源となっているのは酒匂川の美しい水。その水を私たちがまた生活の糧としているのだ。彼らのやさしい姿が、この川の安全性を保証してくれているように見える。

「ルールを守ればいつまでも一緒に暮らせるよ」。

人間の都合で作った取水堰の住人たちの声が、聞こえたような気がした。

コラム 3

小田原の源水
「水のきらめき」2リットルペットボトル

9月1日～10月31日
(防災の日)

新発売

大自然に連なる箱根山系の地下水脈からくみ上げた天然水を加熱殺菌処理したナチュラルミネラルウォーターです。今回新しくペットボトルの販売が決まりました。

水の缶詰も引き続き販売しています。

☎水道局営業課

☎41-1202



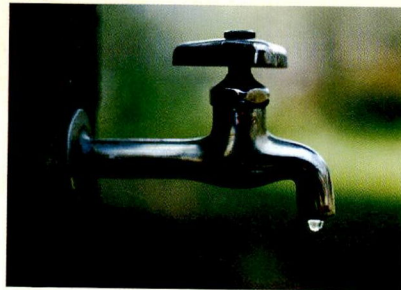
コラム 2

なぜ、小田原の水はおいしいの？

酒匂川の上流には、水道水源林として広葉樹や針葉樹が広範囲に植林されています。水道水源林は「緑のダム」や「天然の浄水場」として、おいしい水の供給源なのです。

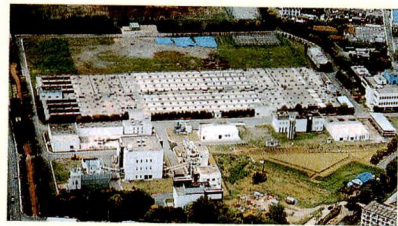
雨水が森林に染み込むうちに、空気中のちりや汚れが取り除かれ、ミネラルが溶け込みます。

小田原市水道局では、このようにミネラル分のあるおいしい水を水道水にして届けています。



コラム 4

影の立て役者
それは、私です！



酒匂川の水はきれいです。実は、そこで活躍しているのが流域下水道なのです。左岸処理場が昭和57年、右岸処理場が平成9年に処理を始め、今では流域の3市6町の生活排水などを浄化しています。

○酒匂川流域下水道左岸処理場(処理区域：小田原市・秦野市・二宮町・中井町・大井町・松田町)

○酒匂川流域下水道右岸処理場(処理区域：小田原市・南足柄市・山北町・開成町)

○寿町終末処理場(処理区域：小田原市)

データに見る酒匂川 その5
酒匂川流域下水道普及状況

処理人口	72,200人
処理戸数	30,221戸
処理面積	1,049ヘクタール
年間総処理水量	13,525t

ここにも酒匂川が

昨年、市制60周年を記念して、「おだわらこどもかるた」が発行されました。このかるたは保育園・幼稚園・小学校などに配布され、子どもたちは遊びの中から小田原の良さを学んでいます。また、公立保育園では「かるた」を展示し、公開しています。

発行者：「おだわらこどもかるた」

制作委員会

(代表 都築融光さん)

絵札：創作木版画家

佐藤北久山さん



11月
17日(土)・18日(日)
開催



川で遊ぼう

酒匂川には、魅力のスポットがいくつかあります。

○酒匂川左岸サイクリング場



1周1,620mのコース内で自由に遊べます。無料貸出し自転車があります。ウイリー・ブレイク・サイドカーなどの変わったものに挑戦しましょう。

☎公益事業協会 232465

○酒匂川青少年サイクリングコース



小田原市 開成町 南足柄市まで約9Km。アスファルト舗装しているので軽快なサイクリングが楽しめます。

○酒匂川の河口

ここはマリンスポーツのメッカ。サーファーや水上ジェットスキーヤーたちが集います。

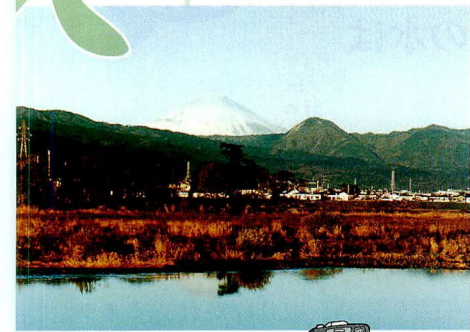
○城下町おだわら

ツデーマーチ

毎年秋には、全国から小田原ファンのウォーカーたちが集います。酒匂川ファンには「尊徳(二宮金次郎)・富士見コース」がおすすめ。

☎実行委員会 381198

美




 瀬戸 進



 小室 誠二



 平井吉宜

花

雪


 草門 守



山紫水明の小田原が誇る酒匂川の美しさをご堪能ください。

酒匂川フォトギャラリー

今回の号では、過去に酒匂川写真コンクールに応募いただいた方の作品を紹介しています。

 が目印です。撮影者敬称略。表紙の写真は、小室誠二・山崎道夫・星野慎平

酒匂川写真コンクール

母なる川・酒匂川をテーマとした写真を募集中!

あなたの写真で川にメッセージを送りませんか。

Ⓜ 8月24日(金)までに、サービス版程度のサイズのプリントとフィルムを提出してください。

📍 環境保全課(酒匂川水系保全協議会事務局)

☎ 33-1481



📷 多田 英志



📷 田中 孝佳



📷 小室 誠二

遊



酒 匂 川 を 取 材 し て

お陰様を持ちまして、広報おだわらは800号となりました。

今回の特集「酒匂川物語」はいかがでしたか。

ある休日、日の出とともに、編集部一同は四輪駆動の自動車に乗り込んで、酒匂川の源流部に向かいました。梅雨時にもかかわらず、午前中から気温30度を越える暑い暑い日でした。汗をふきふき取材を続け、河口についたときには、いつの間にか日も暮れかけていました。

取材が進むうちに、全員が酒匂川の魅力にとりつかれていました。取材写真や知ったばかりの知識を披露する者など、会話はすべて酒匂川一色。紙面の都合で全部を紹介できないのが残念です。

この特集に関するご意見や酒匂川情報などがありましたら、ぜひお寄せください。

広報広聴室 ☎ 33 1 2 6 1

母なる酒匂川

mother the Sakawa

生命の星・地球博物館の学芸員が、さまざまな視点から酒匂川の魅力をリレー方式で紹介します。

小田原と酒匂川

今永 勇 (学芸部長・理学博士)



河口付近

ゆ

く川の流れは絶えずしてしかも元の水にあらず」とは、方丈記の一節ですが、酒匂川の清流は、悠久の昔よりたゆまず流れ続け、小田原市の中央部を通って相模湾に注いでいます。酒匂川は、普段は、大変穏やかな流れですが、ひとたび大雨が降ると濁流となり、上流から土砂を運び出します。足柄平野は、洪水のたびに酒匂川の上流から運ばれた砂や礫が、積み重なってできた平野です。平野は、長さおよそ12km、幅およそ4kmで、東側は国府津、松田断層を境として大磯丘陵に接し、西側は、箱根火山の裾野の台地に接しています。足柄平野は、酒匂川のほかに、東側に森戸川が、西側に狩川・山王川が流れ、地下水も豊富です。

今

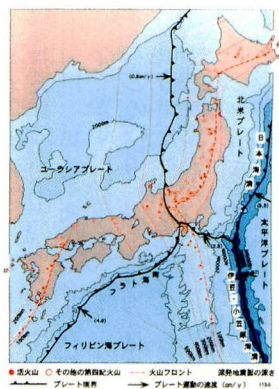
回は、シリーズの初回であるため、酒匂川を地球規模の視点で眺めてみたいと思います。酒匂川は、プレートテクトニクス説というプレートの境界を流れる川です。日本付近には、4枚のプレートがありますが、小田原市は、海のプレートであるフィリピン海プレートと陸のプレートである北米プレート

の境界が通る特異な位置にあります。す。フィリピン海プレートに乗った伊豆半島の地塊は、北米プレートに乗る丹沢山地に衝突していると考えられています。その衝突している境界が、国府津、松田断層、丹沢山地の南部を東西に伸びる神縄断層、伊豆半島の付け根を通って駿河トラフのびる構造線であると考えられています。酒匂川の上流は、丹沢山地です。伊豆地塊の衝突により丹沢山地が隆起し始め、海上に顔を出すと同時に浸食が始まり、丹沢の南側に流れる川ができたと考えられます。そのころは、丹沢と伊豆の間に海峽があり、海峽に砂礫が堆積してしましました。大磯丘陵は、まだありませんでした。やがて海峽は埋まり、およそ100万年前に、伊豆半島の地塊と丹沢地塊が陸続きになりました。西丹沢からの流れは駿河湾側に流れ、東丹沢からの流れは相模湾に注いでいたと考えられます。およそ50万年前に伊豆半島の北東部の箱根火山が活動を始めました。成層火山から始まり、大噴火でカルデラができ、さらに神山・駒ヶ岳・二子山などができました。5万年前より以前に、箱根火山の裾野で国府津、松田断層が活動を始め、箱根火山の側が沈降

さ

て、酒匂川は傾斜が急で、たびたび洪水を起こす荒れ川でしたが、明治以来、砂防工事が進み、おとなしい川に変わっています。河口から海に流れ出した砂礫は、沿岸流によって岸に沿って横に運ばれます。また暴浪のときには、岸から沖へ運ばれ、さらに深海に運ばれていきます。砂浜を維持するためには、

河川から砂礫が運ばれ、絶えず浜が涵養されなければいけないのですが、今は砂礫が上流部にせき止められて河口まで運ばれなくなっています。洪水防止の反面、河口から流れ出る砂礫の量が減少し、西湘海岸の砂浜の後退が進んでいます。海岸で、砂を一握りして、酒匂川の上流に思いをはせてみると、自然の力を感じることができるともいえない。



日本周辺のプレート境界図

好評開催中!

「神奈川県植物誌2001」刊行記念特別展

神奈川の植物その10余年の変化

9月16日(日)まで

県立生命の星・地球博物館
☎21-1515



だいたいアユの味は、川によって違う。多摩川のアユより相模川が上等だし、酒匂川がより勝れる。また、同じ川でも場所によって味が違う。

(略)

その理由は、アユの食物となる珪藻の種類が違い、またその多少にもよる。珪藻のことを俗にアカというが、一番上等なのは、ごく清流に大きなカブラ岩がたくさんあって、岩の質がごく緻密で滑らかだと、青アカという極く細かい柔かい珪藻がつく。

(略)

その上等な青アカを、たくさん食べているアユがおいしい。

『食道楽』

「また漁法によっても味が違います」

網でとると、アユが煩悶して川底の小砂をのむので味が悪く、引掛けるのは、飢えたアユでもなんでもとるから、味がよくない。

(略)

いちばんいいのは友釣りです。活きたアユを水の中へ泳がせると、他のアユが追いかけてきて鉤にかかる。それはアユが、十分にエサを食べて心地よく遊んでいる時でないと、決して友を追わない。つまり味のよくなったアユばかりが釣れる。飢えたアユは決してとれない。友釣りのアユの腹には、珪藻がたくさん入っている。

(略)

酒匂川のは、色が青く脂肪が少ないから、スシにした酢の料理に向き、ことに雌がよく、他の料理には、早川のが味がいい。



明治時代に活躍した小説家の村井弦斎は、長編小説『日の出島』で人気を博しましたが、食通、釣り通としても知られていました。

弦斎は、1901年(明治34年)春に小田原にやってきました。住ま

いは、十字三丁目(現南町二丁目)の西海子通りの近くで、明治35年の大海嘯で被害を受け、明治37年平塚に転居するまでここで暮らしました。

『食道楽』は、1902年(明治35年)から2年間、「郵便報知新聞」に実用的な家庭読み物として連載され、大好評を博しました。

料理に関してだけでなく、婦人の学問のことや夫婦の愛情や家庭の幸福などがテーマとなることもありました。また、食生活をはじめ思想や生活様式などについても、西欧の文化を我が物にしようとしている様子がかがえ、弦斎の米国学経験や交友関係、そして小田原移住直前の尾崎多嘉子との結婚などの影響を感じ取ることができます。

事実、弦斎自身が『食道楽』のはしがきに「食道楽趣味に傾倒したのは、多嘉子の力による」と書いているように、夫人の影響は大きかったのでしょうか。

『食道楽』は、新聞への連載に続いて、「春の巻」「夏の巻」「秋の巻」「冬の巻」の単行本となって出版され、版を重ねて、弦斎の小田原時代の代表作となりました。

『食道楽』の中の「鮎の味」「友釣りのアユ」では、アユの味が、川・漁法・料理法によって違うこと、特に酒匂川のアユは味が優れていること、脂肪が少ないのですしや酢の物に適していることなどが書かれています。

輝く小田原人

ふるさとを掘り続ける～『わたしの小田原』発刊

新井 恵美子さん

ノンフィクション作家

懐かしい風景の細かな描写で郷愁を誘う新井さんのエッセイ。広報おだわら平成11年2月1日号に寄稿していただいた「白い道」は反響も大きかったの、覚えている方も多いのではないだろうか。今回刊行された『わたしの小田原』は、『かながわ風土記』に連載した作品の中から抜粋したエッセイ集である。「小田原の人に読んでほしいです。小田原の人だけに、と言いたいくらいです」。

「私のふるさとのことを書きたいんです」と言って始めた『かながわ風土記』の連載は、すでに18年続いている。

「きっかけは父の最期の言葉です。ひとこと言うのもやっと、という状態だったのですが、私を枕元に呼んで、『ふるさとを掘りなさい。きっと鉱脈が見つかるよ』と」。

新井さんにとって小田原は、6歳から22歳までの多感な時期を過ごした場所である。

「戦争で、東京から父の実家の前川村(小田原市前川)に来て、結婚して東京に出るまで住んでいました。離れているからこそわかる良さがあるし、私にとってふるさとと言えば小田原なんです。父はふるさとが大好きで、いつもふるさとの話をしていました。『血につながるふるさと 心

につながるふるさと 言葉につながるふるさと』という島崎藤村の言葉がありますが、私と小田原はまさに血でつながっているようなものなんです」。

小さいころから文を書くのが好きだったという新井さんは、小学校5年生のときからずっと日記をつけている。

「でも内容は、近所で起こった大人同士のいざこざとか、おじいさんの法事にだれとだれが来て全部で何人だったとか、小学生らしくないことばかり。先生は喜びませんでしたねえ(笑)。ずっと続けているのは、過去が消えていってしまうことがいやだから。それに、作り物の世界より現実の世界の方が、よっぽど不思議でおもしろいでしょう?」。

これは、現在ノンフィクションという

ジャンルにこだわる原点でもある。題材として第二次世界大戦にこだわるのも、戦争のことを話せる人がいるうちに、事実を事実として残しておきたいと思うからである。

「私にしか書けないものもあるのかな、と思います。特に小田原には、いっぱい宝物が埋まっていると思うんです。それも、掘っても掘ってもわいてくる泉のように。小田原を掘ることは、私にとって自分自身を掘ること、家族を掘ること。書こうと思って調べることで見えなかったことが見えてきますし、話はつきないですね」。

自分がやりたいと思えることがあって幸せだと笑顔で話す新井さん。鉱脈を探す日々を、楽しんでいる。



昭和14年東京生まれ。1963年随筆サンケイ賞受賞、1986年「サエ子とハマッ子」で横浜市福祉童話大賞受賞、1996年「モンテンルパの夜明け」で第15回潮賞ノンフィクション部門優秀賞。著書に「雨ふり草」「箱根山のドイツ兵」「腹いっぱい食うために」「平凡」を創刊した父岩堀喜之助の話」ほか。元小田原市教育委員。日本文芸家協会会員。日本ペンクラブ会員。小田原評定衆。

再発見! おだわら

唐沢海岸のガードレール



とてもうれしく、また懐かしく拝見いたしました。写真なんてめったに撮れない時代ですので、一枚一枚に思い出が詰まっていますが、同じ風景を見て小宮さんが懐かしく思っていることに感激しています。ほかの方のお話、ぜひうかがいたいですね。(新井さん談・写真提供)

新井さんの「白い道」が広報おだわらに掲載されたときにお借りした唐沢のガードレールの写真。これを見た小田原・城下町大使で俳優の小宮孝泰さんから、こんなメールをいただいた。

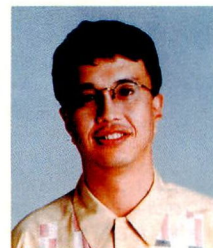


写真:小宮孝泰

広報おだわらに載っていた、作家の新井恵美子さんの写真を見てちょっと驚きました。あの写真に写っている道路のガードレールは、僕が子どものころに覚えている景色とそっくりでした。あの唐沢海岸で地引網を手伝ったり、どぶ川のようなところでオケラを取って遊んだりした思い出があります。

あのガードレールが懐かしくて現在のガードレールを見に行きました。別なガードレールは足されたものの、現存していました。昭和初期の写真にも写っているのですから、

できてから70年は経っていることになります。今は不要とも思えるガードレールが残っているのがうれしくなりました。僕の思い出で40年前ですから、もっと古くから覚えていらっしゃる方は多いに決まっています。なんだか、幼いころの原風景なので、大切にしたい気がしましたので、映像を送ることにしました。この風景に思い出がある方がほかにいれば、お話も聞きたいものです。(一部抜粋)



小宮 孝泰さん